

- ▶ 特集
- ・個に応じた支援につなげる校内体制
 - ・教育センターホームページリニューアル
 - ・重点課題研究推進校の紹介

地域とともにつくる学校

教育監 伊藤 重夫

「旧知の友に出会ったみたいですね。学校を訪ねていただいた地域の方に校舎案内をしているとき、おっしゃられた言葉です。その方は、ご自身もお子さんもこの学校を卒業して、現在はお孫さんが通ってみえます。久しぶりに足を運んだ学校で、多くの友や恩師と過ごした日々のことを懐かしく思い出されたのでしょうか。」

校舎は、木やコンクリート等できただけのものですが、その学校で学んだ人たちにとっては、それ以上のもの、たとえると人格を持った一人の友人にも思えるのではないのでしょうか。誰もが学んだ学校は、その時々を過ごした子どもや保護者、教師だけでなく、地域の人たちの支えによって育ってきたのだといえます。時の流れの中で、教師も子どもも変わっていきますが、変わらないのは学校が地域の中にある

り、そして地域の学校を育てていけるのはそこで暮らしている人たちであるということなのです。

このように、学校を育てていくためには教師や保護者だけでなく、地域の人たち全ての思いを大切にするとともに、協力が必要であるといえます。学校は今までも多くの方の協力を得てきましたが、どちらかといえば学校側の考えで協力をお願いしてきた傾向がありました。しかし、地域とともにつくる学校を目指すためには、「依頼・協力」という関係ではなく、学校と地域がより密接につながった「協働」の考えに基づいた関係作りが必要なのです。

そのために、有機的・効果的・組織的に地域の教育力を生かすことを目的とした「学校づくり協力者会議」の設置を進めてきました。会議において

は、委員の皆さんから学校運営について積極的な意見が出され、特色ある取り組みにつながってきたなどの成果が見えてきました。今後は「協力」から「協働」へ進んできた学校と地域の関係をより発展させ、「参画」を視野に入れた学校づくりを目指し、名実ともに「地域とともにつくる学校」を実現したいと考えています。



個に応じた支援につなげる校園内体制

特別支援教育では、個に応じたカリキュラム作りや具体的な支援をすることが大切です。校園内体制作りの3つのポイントについて、市内の取り組みを交えて紹介します。

特別支援教育校園内体制作りの3つのポイント

1. 学校全体の理解と協力
2. 教職員の共通理解
3. 途切れのない支援



1. 学校全体の理解と協力

・・・サポートブック p10～18 参照

● 校内特別支援委員会で特別支援学級の子どもへの支援を検討（A小学校の例）

A小学校では、校内特別支援委員会において、特別な支援が必要と思われるすべての子どもへの支援のあり方や、特別支援学級のカリキュラムについて検討しています。このことで、今まで以上に、学校全体の理解と協力が得られるようになり、個に応じたよりよい支援が行われています。

特別支援学級のカリキュラム検討の視点

- (1) 教職員が子どもの実態や目標を共通理解しているか
- (2) 交流学习の目標とその手だてが、その子にふさわしいものとなっているか
- (3) 特別支援学級における小集団での学習は充実しているか



2. 教職員の共通理解

・・・サポートブック p19～20 参照

● グループ討議を活用した事例検討（B中学校の例）

B中学校では、グループ討議を活用した事例検討を行い、子どもの特性や状況について共通理解を図っています。支援の方針を共有することで、子どものよき理解者として前向きな支援ができるようになっていきます。

事例検討の流れ

(1) 担任からの報告と全体質疑

- ・最近の子どもの様子（生活リズムの乱れ、意欲の低下、苦手なこと）
- ・子ども自身はどう思っているのか？困り感があるのか？
- ・子どもの得意なこと、好きなことは？家庭環境、医療機関の見立ては？

(2) グループ討議と発表

- ・各自が付せん紙に支援方法等についての意見を記入
- ・意見を模造紙上に分類し、支援の手だてを検討
- ・グループごとに発表
- ・助言者（専門家）からの意見



支援を具体化するには、専門家からの意見や事後のまとめも大切です。
地域特別支援教育コーディネーターや指導主事を活用しましょう。

3. 途切れのない支援

・・・サポートブック p7~8, p21~23 参照

●次年度に備えて

この時期には、運動会の来入児競技、就学時健診、学びの一体化の授業公開や情報交換会などがあります。これらの場面をきっかけとして、保・幼・小・中が互いに連携し、子どもや保護者が安心して新入学を迎えられるようにしましょう。

送り出す側（保幼・小学校）では

- ・進学予定校の見学，進学先の担当者と保護者との面談を調整

受け入れる側（小・中学校）では

- ・在籍校園に出向き，子どもの見取りと聞き取り
- ・入学予定者による学校見学，面談を実施



行事よりも通常の授業・保育を参観するのがよいと思います。

収集した情報をもとに、
クラス編成や教室配置の工夫をしましょう。

面談や聞き取りの際には、
「相談支援ファイル」を活用しましょう。



校園内体制をチェック！ ・・・サポートブック p43

四日市市校園内特別支援教育体制作りサポートブック p43 にチェックリストがあります。校園内体制の強みと弱みをチェックして、改善に役立ててください。

★ 教育センターホームページリニューアル!! ★

“見やすい”そして“活用できる”を大切に、教育センター・視聴覚センターのホームページをリニューアルしました!!

HP アドレス <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/> または

四日市市立教育センター

検索

四日市市内の先生は・・・



まずはインターネットエクスプローラーをクリック!

教育情報データベースの画面がでるので



ここをクリック!

リニューアル後の
トップページ



ポイント①

ポイント②

ポイント④

しえん君です!



教育支援課のマスコットが誕生しました!

ポイント③

ポイントをおさえてホームページを活用しよう!

ポイント① 教職員研修についてはここを参照!

「教職員研修会案内」のページ



研修会の講座一覧・夏季研修ガイドなどのダウンロードはこちら!!

「研修会についての連絡」のページ

研修会前に必ず情報をチェック!!



研修会についての連絡事項（時間変更・会場変更・持ち物など・・・）を随時更新しています。携帯サイトからも同内容をチェックできます。

重点課題研究推進校の紹介



小山田小学校（重点課題研究推進校 1年次）

ICTを活用した授業の推進に向けて ～夏季研修会から～

小山田小学校では、夏の校内研修会で、ICTを活用した学び合いの授業実践報告、模擬授業を行いました。また、三重大学教育学部附属小学校中村武弘先生を講師に招き、授業における具体的な活用例とポイントを学びました。「子どもの学びを高める」視点で、2学期もICT活用をすすめます。



授業のどの場面で使うと効果的だろう

ICT機器活用のポイント

- ・ 難しい機器を無理に使わない
- ・ 機器が手になじむまで使い続ける
- ・ 今までの自分の授業スタイルを大切にする



中部中学校（重点課題研究推進校 1年次）

ICTを活用した授業づくり ～教師のICT活用指導力の向上をめざして～

中部中学校では「自ら学ぶ力が育つ授業づくり」をテーマに「ICTを活用した授業づくり」の研究を推進しています。

本年度は、校内にICTプロジェクトチームを発足させ、ICTを活用した授業のモデル作りを行っています。また、プロジェクトチームが中心となって、教師のICT活用指導力を高める研修に取り組んでいます。1学期は「授業でICTをどのように活用できるか（気づき）」をテーマに研修を進め、夏季校内研修で交流しました（写真参照）。今後は「授業のねらいに応じて、ICTが適切に活用されているか（評価力）」に視点をあて、研究を進めます。



デジタル掛図（社会科）



デジタル教科書（英語科）



書画カメラ（技術科）